'91 2月号 No.460

京交山岳部報

今月のテーマ ≪雪と遊ぶ≫

〔第1823回例会〕★★★

（氷雪技術講習会・検定会（山岳連盟主催））

八ケ岳連峰

日時	2月8日（金）～11日（月）
集合	2月8日 21：30 市役所前
宿泊場所	BC赤岳鉱泉小屋 ☎0266-72-3939
参加対象者	指導員、指導員検定受検希望者及び生徒役
検定内容	氷雪技術基礎編実践
指導員研修内容	厳冬での登はん、氷ばく、ラッセル、ビバークの実践、指導員か初・中級者への実践指導
申込締切日	1月20日（吉田まで）
打合せ会	2月4日（月）岳連ルーム19時より 参加者は出席して下さい。
担当者	吉田 武（☎654）
その他	詳細は担当者まで連絡下さい。

〔第1824回例会〕★★★

一等三角点スキー登山

岩菅山

日時	2月9日（土）～10日（日）
集合	2月8日 PM8：00 九条車庫
コース	東IC－上越IC－志賀高原スキー場－岩菅山△2295
担当者	大槻 雅弘（☎544）
備考	テント泊のスキー登山をします。勤務の都合により目的地を変更するかも知れませんので、参加希望者は必ず事前に連絡のこと。

〔第1825回例会〕★★★

（山岳連盟の遭難救助訓練）

廃村八丁

日時	2月23日（土）～24日（日）
集合	京都バス出町柳駅 7：30
コース	23日 出町柳駅（バス）－京都バス菅原町－ダンノ峠－廃村八丁（泊） 24日 救助訓練に参加－ソトバ峠－小塩上ノ町－京北山の家
担当者	大倉寛治郎（検車区 ☎3371）
備考	冬山装備一式、ワカン、アイゼン、ピッケル又ストック、寝袋、食料は各自で準備のこと（三食分）と行動食

＊今回は遭難救助訓練に参加します。部員各位の御参加をお願いします。

＊ご参加の方は必ず2月21日（木）午後7時より岳連ルームでの打ち合わせに出席して下さい。

＊参加費1,000円 保険代

詳しくは担当者まで御連絡下さい。

今月の集会

日時	2月8日（金） PM6：30
場所	厚生会館 4F大教室

企画運営委員会

日時	2月19日（火） PM6：00
場所	厚生会館 4F大教室

山声雪語

ひ　つ　じ　の　山

岡　田　茂　久

年に一度全国から集って、その年のエトにちなんだ山を登るという、京交山岳部でも何人かが常連メンバーの十二支会というグループがある。発足は昭和30年代であったと記憶する。

エトにはそれぞれに動物が当てはめられているが、中国からのエト伝来時、すでにそれは決まっていたらしい。以来、エトとその動物はたいした違和感もなく、日本人の意識に同一のものとして溶け込んでいる。十二支会でも同意語として山を選ぶ対象としている。対象になる山が数あるものは、より標高の低いものから選ぶということだが、年によっては山を捜すのに苦労するという。全てのエトに関連する山名というものが、そう幾つもあるというものではないからである。

エトに関連する山名の中では、やはり農耕民族の日本人だけに、まず雨乞い信仰等に基づくと思われる〝辰〟が一番多い。次いで〝申〟や〝亥〟。農耕にちなんだ〝丑〟や〝午〟。それに比較的身近な動物である〝卯〟〝酉〟〝戌〟〝巳〟等が散見できるが、後世の渡来動物である〝未〟は、寡少である。しかし、同じ渡来動物であるのに〝寅〟は結構あちこちに見られ、身近な動物であるのに〝子〟が見当らないのはどうした訳であろう。

〝寅〟についてはこんな思い出がある。十二支会ができて間もない頃〝山の捜し物－虎の山－〟というお尋書きが、当京交山岳部報に掲載された。この時見つけ出したのが伊吹山の北西の〝虎子山〟である。〝樹林の山旅〟に刺激されて伊吹北尾根の積雪期縦走をやり、尾西の村に降りた折に村の婆さんから聞き出したものである。確かに虎の子の山と確認したのだが、耳の遠そうな婆さんだったことから、ひょっとするととんでもない勘違いではなかったろうかと、今でもふと思ったりもする。今はもう地図も地元でも〝虎子山〟で通ってしまって、再確認の仕様もない。

今年のエトは〝未（羊）〟であるが、これは唯一北海道の後方羊蹄山（シリベツ）しか見当らない。しかし今年は新しい〝ひつじ〟の山が見つかった。丹波の〝櫃ケ岳〟である。これは大阪低山跋歩会の慶左次盛一氏が古代製鉄（タタラ）に関連した伝承を調べて、山麓の村では古くから〝櫃ケ岳〟は〝ひつじが岳〟と呼ばれていたことが判ったからである。京交山岳部でも初登山はできれば近郊のエトの山をという意向から、十二支会と同じ〝櫃ケ岳〟を選ばせてもらったが、苦労する山名捜しは他に考えようもあるのではないかと、遅ればせながら本棚をかきまわしてみた。

十二支物語によると「羊は祥なり。羊は古代より神の犠牲に捧げる神聖なものから祥という漢字が作られた」とある。漢字は様々の部首である冠、傍、偏等を組み合わせて構成されている。この例から「羊」という部首を持つ漢字をいくつか思いついた。漢和辞典の埃を払ってみると、「善」は羊と言の合字どめでたいの意。「義」は羊と我の合字。羊は弱いものだから大勢が一緒になることから「群」の字が出来たとあり、「羨」は肥えた羊を見て〝よだれ〟を流す意から羨ましいという字が作られ、そして「美」は羊と大の合字で肥えて大きい羊は味もおいしいの意とある。「養」

は羊を食うため飼うことからきたとある。

なんのことはない。こんな身近な処に羊は隠れていたのである。今までこんな簡単なことに気が付かなかったのが不思議であるが、京都には丹波に〝美女山〟があり、〝養老山〟にいたっては全国何処の地図を開いても見受けられるのである。この考えでいけば〝子〟も案外見付かるかもしれない。しかし〝未〟や〝子〟にちなんだ山は稀少で、高値の株が大暴落する感が無きにしもあり、こんな解釈は以ての外とおっしゃる御仁もおられるだろうが、いずれにしても所詮は言葉遊びである。こんな考えが出てきても良いのではないだろうか。

〝未〟の今年の納山には、〝大きな羊の女の山、おいしい女の山－美女山－〟で、ジンギスカンと洒落れるのも愉快だと思うがどうであろう。

〔第１８１８回例会〕

１９９０年納山祭　伊賀谷山登頂報告

津田　実

小生が我が京交山岳部へ入った年の末に納山祭なるものがあるとは聞いていたが、どんなものかその内容は、現場勤務の悲しさでなにもわからなかった。

７６年の末、愛宕の芦見谷での納山祭に参加してからは病み付きになり余程のことのない限り参加している。

前夜に焚火を囲んで好きなお飲物を頂戴して、翌日は軽い山へ登ってハイサヨウナラ。こんな山行きなら毎日でもよい。

然し、今回の納山祭は少し勝手が違うようだった。最初八丁平でキャンプだけと聞いて、アア、あそこやったら楽やと簡単に行きますと、担当者に申し込んだ。が、後が悪い。伊賀谷山へ行くとのこと、そんな山どこにあるのやろと、１／２５,０００図、花背を捜出し、金久さんの労作京都北山Ｎ０２を見る。

全然道の無いヤブ山らしい、「コンナンヤッタラ、行くて言わへんかったらよかった」。後悔先に立たず。バーベキューに釣られての参加であった。「そもそもエエ歳してクイモノに釣られての山行きとは我ながら情けない次第」。

八丁平へは、大見尾根から、俵坂から、又、チセロ峠、オグロ坂峠から、伊賀谷右俣からと幾度も入ったが大見・尾越からは先述の大見尾根から一度きりであった。

八丁平の林道問題が提起された当時に大槻貞従さん、渡辺朋子さん、原田加津子さんと４人で偵察に行ったがこれは俵坂からである。

我が山岳部の万年新人、田村君のライトバンにテント・食糧等を山積みにして本隊より先行する。大見、尾越の変貌に愕然、言葉なし。行政は何をしているのか。

八丁平のゲート右側二ノ谷の岸辺に適当なテント地を見附け、本隊の到着と同時に設営にかかる。皆んなこんなことには慣れた者ばかり、少しの時間で、寝るところから、ご飯の用意まですべて出来上がり。まだ外が明るいうちから薪に火を付ける。

その夜はこの周辺の先住者である獣達の安眠を妨げ続けたのであります。山の朋よ許せ。

翌朝は、テント地より少し戻り木橋を渡ってフジ谷峠目指して杉の植林地帯の中の一本道を登る。

金久さんが「かってこの道を若狭の旅人が往来し、敗走の軍馬が京へ急いだであろう」と北山の峠に書かれているが、昔日の俤は無残にも土石の下に埋もれ、通る人もない赤土の林道が空しく横たわるのみ。

同志社香里高校ＷＶ小屋を左手に送り少しで右手に伊賀谷左俣が出現する。目指す伊賀谷山につながる尾根が高く見える。

伊賀谷左俣源流が二つに別れる地点少し手前のフジ谷峠寄りのところを強引に谷に降り前方の尾根へ這い登る。熊笹の密生地帯で笹の根と茨の熱烈大歓迎を受けるが、美濃のヤブで鍛えられた山の猛者達は平地を行くような速度で登って行く。でも小生は歳のせいか厳しく、苦しい登りであった。７５０ｍの等高線付近と覚はしき地点に辿りつき、一本立てる。

それからは、雑木の疎林になってきた。何と言っても尾根筋は歩き易い。熊笹との格闘がないだけに全員足が軽い。先程の苦闘が嘘のようだ。

小雪まじりの烈風が時折ほてった頬をなぜる。又、向こうには比良連峰の盟主、武奈ケ岳が今度はこちらにおいでと呼んでいる。右下に若狭街道が舗装道路を走る車も一瞬ではあったが見えた。

もうどのくらい歩いただろう、大槻さんが呉れた地図を出す暇もなく先行者の後を必死で追う。こんな所ではぐれたらパーティに迷惑を掛けるだけでは納まらない。無事に帰れる保証もない。でも尾根芯を外さなければ大丈夫だと思うが現在位置が分からない。

こんな難解なルートを我家の庭を歩くように確信を持って全員を導いてくれる岡田、大槻さんの読図力には毎度のこと乍ら恐れ入る。「そんなところで恐れ入ってないでお前も勉強せいてですか。エライスンマヘン」。

地図上８８９ｍ地点と覚はしきところからコルを２・３越えて、ヤットかヤレヤレか三角点に辿り着いた。

伊賀谷山Ⅲ等△９００.７ｍ、このような名も知れぬ山では訪れる人もあるまいと思っていたが、ちゃんと名板が取り付けられていた。流石岳人。先人よありがとう。

お礼もそこそこに三角点祭を、厳かに執り行う。？

前夜祭で元気発剌、山道ションボリの我が愛すべき万年新人君、俄然ハッスル真っ先に神前に額かずく。

舞鶴の山で食糧が足りず、ひもじーい思いをした軟弱グループも今日は大量の食糧を担ぎ上げ、神前を賑やかす。

楽しい神前のセレモニーも時間と天候に追われてそこそこに切り上げ帰路につく。

帰りは往路下山と即断して先頭を歩いていたら又もや心憎いメニューが出現。

往路下山では余りにも芸が無さ過ぎるとの担当者の心配りか、？　悪名高い伊賀谷左俣を溯行するとのご託宣。渋る小生らをホットイテ、大槻、吉田の両君は物凄い急傾斜を降っていった。

コンナトコロで滑落したらクラブの納山どころか、自分の納棺になって仕舞う。必死の思いで立

木に縋り震える膝に力をこめて谷に降りる。

１２月に沢歩きとは酔狂者の大槻さんならではのご献立、では一献所望。「アホ洒落てる場合か」。然し、部員諸候よ、ご安心あれ何事にも抜かりのないお二人方のこと、降下地点は安全な場所であった。それからは岡田さんの先導で無事に最初の林道に戻れた。

難解な伊賀谷山へ無事登頂出来ましたのも、岡田さん、大槻さんのおかげです。ありがとうございました。

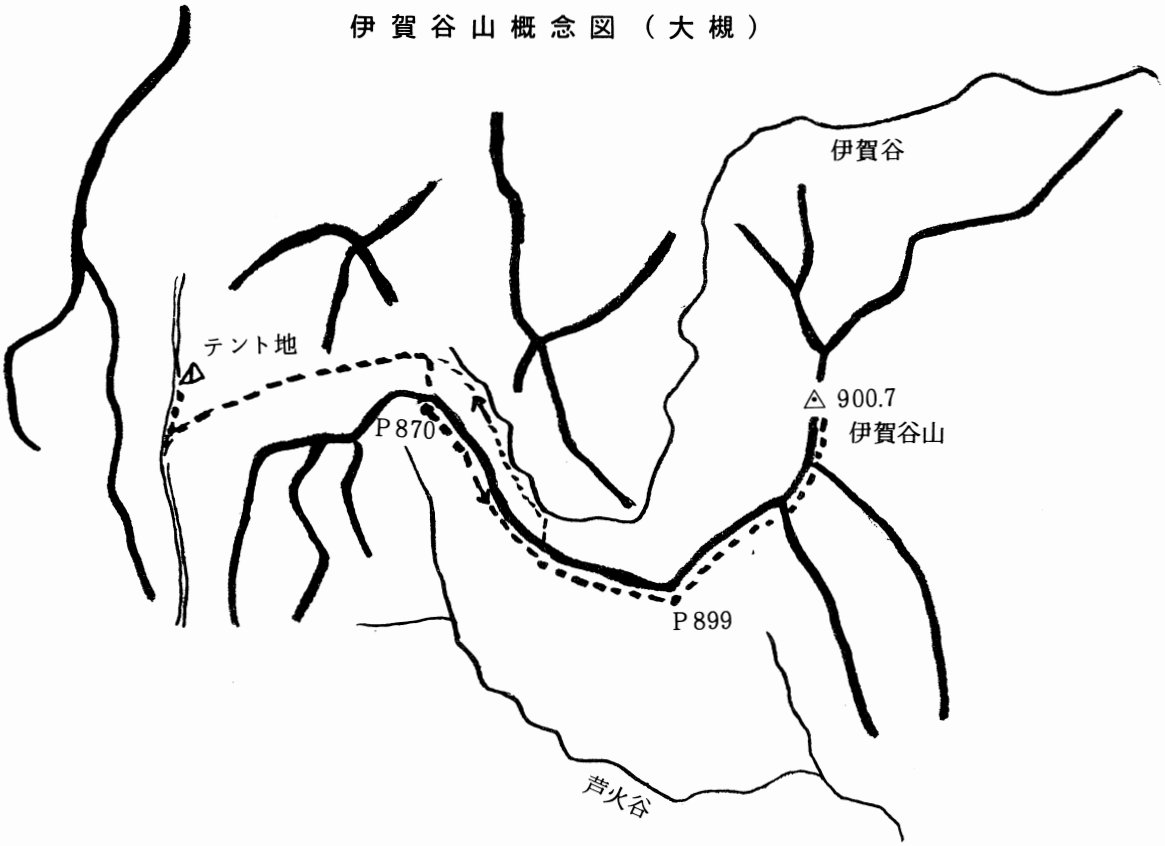
食糧、テント、配車等、いろいろと配慮くださった担当の吉田さん、古市さん。ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

（参加者）岡田、大槻、吉田、古市、井戸、竹田、和田、田村、坂井、奥村、横井、辻、津田、以上１３名。

（コースタイム）

12月16日　テント地（８：30）…（８：50）植林の中指導標…（９：20）Ｐ８７０Ｍ…（10：10）Ｐ８９９Ｍ…（10：50）△９００.７Ｍ（11：40）…14：20（テント地）14：50－16：40（壬生）

伊賀谷山概念図（大槻）



〔第１８１９回例会〕

城ケ森山と白馬山

大　槻　雅　弘

吾年、午歳の山登りは、京の鞍馬山で始まり、紀州の白馬山で終えた。

前日、川原河を見下す電波塔の下でテントを張った。その前に、一等三角点城ケ森山を登ってのことだった。

友よし、酒よしの一夜は、満天の星を肴に「友よ岩よ……」と喉が嗄るまで唄い上げ、疲れ果てると同時に高鼾。なんと幸な友ではないか。

都会での喧騒を逃れ、自然に浸ると何もかもが透き通って見える。友の心もしかり。何のこだわりもない、言葉を選ばぬ冗談も、戯言であり、全て楽しい語らいとなる。

「爺ヤー行クゾー」「ヘーイ、ヨロシオマス」の掛声で出発。全員にコースを記した地図を渡す。我々は、前もって美山村役場へ問い合せておいた径を歩くことにした。

即ち、川原河の電波塔から△５５８.６ｍを経て白馬山へ。下りは久保の峠（タワ）から李（スモモ）へと廻るコースである。

よく踏まれた径から、一気に直登すると三等三角点５５８.６ｍに着いた。昨夜、あれ程美しい星空であったのが、今にも雨が降り出しそうな空。風が冷たく、少しアラレのようなものが当たる。三角点だけを撮って、先を急ぐ。このルートは、地元でもよく歩かれているのか、結構道巾も広く、腹を捲いてなだらかに径がある。樹間から斜めに差す陽が、杉の木立を美しく浮き立たせている。その光の筋を廻り込むと、石碑のある分岐点に出た。

「右、高野みち・左、若山みち」と示された小さな碑。何年前から建っていて、どれだけの人がここで休み、通過していっただろうか。高野詣りの古き径であったのだろう。和歌山を若山と刻された字も昔を語っている。

空は時折、青空も見えるようになって、雨の心配はない。だが、冷たい風は出発時と変わらない。

分岐点からは、いくぶん径も細くなり、一部は判明しにくい場所も出てくる。テープに導かれて出た所に、２つ目の石碑があった。これには「右、やまみち・左、高野みち」と刻ってあった。

白馬山への最後の径は、伐採されたハゲ山を登って、鞍部を越えるとそこに櫓の２等三角点があった。三角点には約束通り、ホワイトホースを供え、この一年の頂の想いをこめて、万歳をした。

例によって、京交のグルメ・ＡＮＤ・ＳＡＫＥの一時は楽しく過ぎた。敢えて、冷たい風の通る三角点のかたわらで、午・鞍・馬・ホースにこだわっての一年は終わった。下りは、東へルートを採って予定通り、久保の峠（タワ）から李（スモモ）部落へと降り立った。

追、当初参加予定の古市、和田両氏がアクシデントの為参加出来なかった事が残念でした。それにテントの中では、大木君を想い、涙・涕・泪でした。

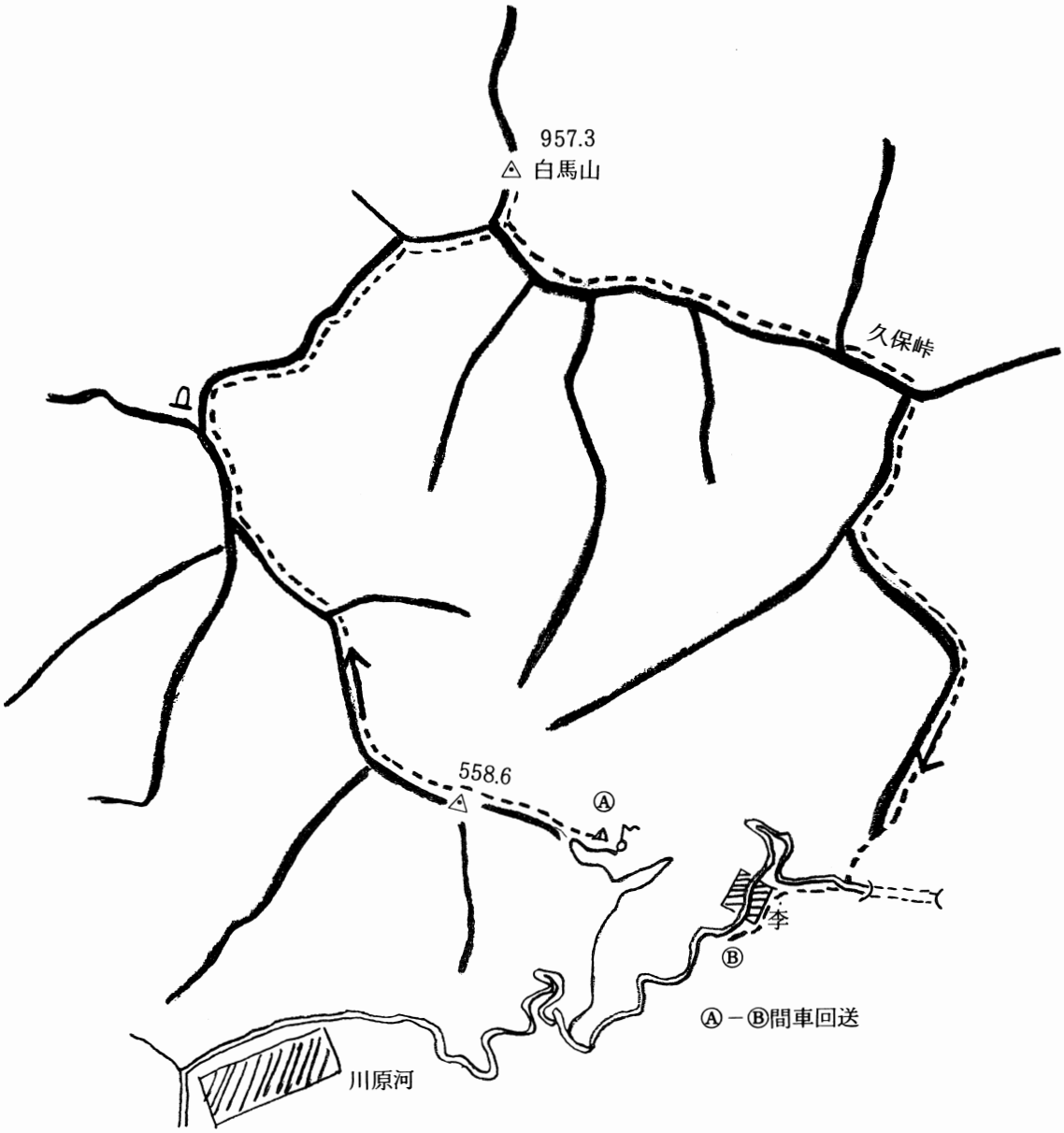
（参加者）岡田、津田、三橋、吉田、方山、大槻

（コースタイム）

12月22日　九条７：30－11：30高野山－15：00城ケ森山－17：00電波塔（テント地）

12月23日　テント８：00－８：17△558.6ｍ－９：30分岐点－10：35△白馬山11：55－13：00久保峠－14：30李－19：30帰洛

白　馬　山　概　念　図



〔１８２０回例会〕

初登山丹波櫃ケ嶽

井戸澄夫

平成３年（西暦１９９１年）も平穏にやって来た。ＮＨＫの「ゆく年くる年」は宇治の平等院を映して新年を迎えたので、今年の正月は柄にもなく、平等院へは行かず対岸の興聖寺に行って来た。この寺は拝観料を取らないので有名でもなく、訪れる人も少ないのだが、知る人ぞ知る、曹洞宗では福井県の永平寺と並ぶ格式高い寺である。小生がこの寺を知っているのは他でもない、父と次兄の骨を納めているからである。老母を連れて正月から墓参りと寺参りを済ませて、一年分の親孝行を一度にすませたような気分である。

去年は大木君が逝ってしまった。４１才の誕生日を待たずに彼は旅立ったが、小生は満４１才を迎えて正月を越した。同年齢で交通局入局も同じ年である。彼は仕事仲間でもあったが、山仲間としてのつきあいのほうが長く深かった。明日は我が身かの心境である。やりたいことは早目早目にやっておく、また言いたいこともあまり遠慮せず言っておくようにするのがよさそうである。４０を越えていよいよ小生にもあせりが出てきたのかと自分でも思う。特に身近にいた友人の死を見たりするとその感が深い。ともあれ志半ばに逝った友の冥福を正月の朝祈った。

今年の初登山は、少しこじつけくさいが羊の干支にちなんで、丹波の櫃ケ嶽（△２等５８２.１）ということになった。地元では〝ひつじ〟と呼んでいるそうである。しかし麓から見た感じでは、その字のとおり〝おひつ〟を伏せたような形から山名がきているように思われる。

山口君と２人で担当するようにとの仰せで、ＯＢ現役の津田さんに手伝ってもらい、恒例のぜんざいをやるべく準備した。山口君は昭和３２年生まれだから小生より８才も若い。津田さんが６４才だから倍ほどの違いがある。こうした老若が入り混じっているところが京交山岳部のよいところだ。

壬生８：00、集合したのは総勢２９名。最年長７３才、最年少４才の幅広い年代の老若男女が正月早々から元気いっぱい集まった。７台の車に分乗して国道９号線を一路丹波路へ。須知から国道を離れ５㎞程行ったところ（地図では小野）の橋のたもとで車を降り歩くことになった。天気は時折り雪が散らつくが、晴れ間も多く絶好の登山日和である。脇谷から谷を詰めて約５０分で、京都府丹波町と兵庫県篠山町との県境尾根に出た。

そこから尾根伝いに２０分程登って山頂に達した。急な登りもなく、踏み跡も確かで快適な登高であった。山頂には先着の中高年の１０名程のグループがいて、昼食のうどんをひっくり返して大騒ぎしていた。会の名前は〝北山の会〟（北山クラブではない）と言っていた。山頂はかなり広く、我々２９名もゆったりすわって昼食　とることができ、出発前に心配していた伐開除根の苦労はせずにすんだ。山頂からは園部町方面が開けてよく見えた。さっそくぜんざいの準備にかかったが、室谷君が汗をかいては運び上げてくれた２０リットルの水を有効に使おうと思い、ついつい水を入れすぎてしまい、湯になるのに時間がかかり、おまけに出来上がったぜんざいは少々水っぽく、あまり評判はよくなかったようである。そこで櫃ケ嶽にも分け前をやることにした。

下りは県境尾根を黒谷峠まで下り、黒谷を下って元の車を置いた場所に戻った。小さい子供もいたので県境尾根を雨石山まで行くのはやめた。

（参加者）山村、奥村、津田、横井、岡田、鷲見夫妻、大槻（雅）、吉田、三橋、渡辺Ｆ１、和田、荒田Ｆ２、方山、竹田、井上、川原Ｆ１、山岡、西尾、多田、室谷、山口Ｆ１、井戸Ｆ１、以上２９名

（コースタイム）

壬生８：30－丹波町小野９：48…11：00山頂（昼食）12：45…14：00黒谷峠14：15…15：00小野－16：50壬生

『愛宕山１時間』をクリア

荒　田　又之助

大槻（雅）さんに「いっぺんやってみたら」と言われて思い立ったのが去年の春。友人の阪本君と喋りながら歩いて行って１時間２５分の実績があるので挑戦してみた。

清滝の鳥居のところから愛宕神社の御札を渡しているところまでを、である。５月、７月、１２月の３回でやっと達成。「京交山岳部」と「さわやか会」（市役所のジョギングクラブ）の２枚看板もあることだし……。以下はそのタイムである。（単位は分）

	５／１２（晴）	７／２２（晴）	１２／２４（晴）
3.3合目	２１	２０	１９
５合目	２９	３０	２９
水尾岐れ	４４	４５	４４
黒　門	５４	５６	５４
神　社	1.０１	1.０３	1.００

＊「手ぶら」でタオル一つの荷物、ジョギングシューズで。平地は走って。

＊５月には、上では桜の花びらがひらひらと散っていた。

＊７月には、汗で前が見えなくなった。

＊１２月には、上では粉雪が舞っていた。５合目は時計を見ていないので推定である。黒門から社殿までそれこそ全速力で飛ばした。最後の段階では心臓がパンクするのではないかと思った。

＜年寄りの冷水＞　老人に不似合いな危ういことをするたとえ。（広辞苑）

江戸時代、隅田川の冷たい水を年寄りがガブガブ飲むところから。

（いろはかるた）

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1818	（納山祭） 八丁平・ 伊賀谷山	12月15日 ～16日		吉田　武 古市　昌造 大槻　雅弘	岡田、井戸、竹田、和田、田村、坂井、奥村、横井、辻、津田	別稿詳報
1819	城ケ森山と 白馬山	12月22日 ～23日		大槻　雅弘	岡田、津田、三橋、吉田、方山	別稿詳報
1820	（初登山） 丹波櫃ケ嶽	1月6日		井戸　澄夫 山口　雅直	山村、奥村、津田、横井、岡田、鷲見夫妻、大槻(雅)、吉田、三橋、渡辺Ｆ１、和田、荒田Ｆ２、方山、竹田、井上、川原Ｆ１、山岡、西尾、多田、室谷、山口Ｆ、井戸Ｆ、 以上29名	別稿詳報

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
瓢箪崩山	12月21日	曇	（個人山行） 山口　雅直	暮れと年始の午後の空き時間、マウンテンバイクを使って近郊の山へ行ってきました。十三石山は展望もよく、帰路、満樹峠より林道を経て賀茂川ぞいにダウンヒルを楽しみました。
城山 十三石山	1月4日	晴	〃	

雑報

▲▲ 山岳部の新年会が１月７日（月）に松尾の「網船小島」で行われ、総勢３５名が参加し、和気あいあいの雰囲気の中で、新年を祝いました。恒例となった各人のひと言あいさつは以下のとおりです。

三　浦　宴会要員で、敷居を上がるのが第一歩です。敷居より高い山に登りたいと思います。

近　藤　記憶力が減退していることもあるが、今日は知らない顔が多いように思う。山岳部が若返りつつあるということで、めでたいことである。若い人を中心に発展し、ＯＢも仲良く誘ってくれて楽しい山登りができることが一番である。それから４０周年記念出版はぜひ成功させていただきたい。

山　村　もうあまり大きなことは言えない。今年は山１つを目標にして、あとは余分とする。今年の分は昨日の初登りですませたし、あとは余裕でゆっくりやりたい。

奥　村　一病息災を肝に銘じてトレーニングしている。よい山を誘ってほしい。モットーは楽しい山である。よろしく。

坂　井　リュックをプレゼントしてくれてありがとう。一等三角点をせいぜい登っていきたい。あとは北海道の山を登っていきたい。

尾川原　去年、山岳部に入部した。今年からはいろんな山に挑戦したい。

川　原　ぼちぼち山に登っていきたい。

山　口　去年からマウンテンバイクをやっている。よいコースがあれば教えてほしい。

方　山　今年も楽しく登りたい。皆さん誘って下さい。

松　田　去年、白馬岳に登った。今年も大きな山に登りたい。

大　槻（雅）去年は日曜の数（５２）プラス１３山、合計６５山に登った。山気違いになってきた。ど気違いになるのもよいと思う。自分自身の目標をもって励んでいきたい。今年は櫃ケ岳から始めて、羊蹄山で締めくくりたい。

服　部　今年中に深田百名山を登り終えたい。

鷲　見　今年の目標は去年と同じで、家内と大雪山を縦走することだ。そして、４０周年記念誌の実現に没頭したい。

田　中　最近、楽しい夢ばかり見る。

岡　本（義）今年は、去年より１つ多く登りたい。

吉　田　今年は４０周年記念出版を全うしたい。今年は私の回り年だ。

山　岡　去年は地図を見ながら歩きたいと言った。今年は地図を読みながら歩きたい。

西　尾　去年、入部した。市役所にいる。去年は栂海新道を縦走し、雪彦山で岩登りをした。バリエーションに富んだ山行、自然と親しみ余裕ある山行をしたいので、誘ってほしい。

津　田　小生、昭和３９年に入部した。今６４才です。私のモットーは「やはり野に咲けレンゲ草」である。これからも野武士として生きたい。

石　田　夢の話ですが、よい絵（？）を枕の下に敷いて寝るとよい夢（？）を見れるそうです。一度試してみたら。

横　井　今年は干支にちなんで羊蹄山に是非登りたい。

渡　辺　去年の納山会は不参加だったが、今年の初登りと新年会には参加した。これが今年の抱負です。

上　田　去年は月１回の登山を新年の抱負にしたが、できなかった。今年は１回でも多く登りたい。

荒　田　去年は２回しか例会参加できなかった。しかし、子供ができたし、フルマラソンも完走できた。今年はふた又かけていきたい。

山　元　去年は３山であった。今年は積極的にやっていきたい。

井　戸　去年は９山登って、そのうち例会は６山であった。今年は月１回の目標を達成したい。

和　田　大台（５０才）を超えて体力が弱っている。今年はぼちぼちと「行ける山」を行きたい。

田　村　１年１山が目標、あとは余力で登りたい。酒の飲める楽しい山を誘ってほしい。

竹　田　新年会参加は２年目です。今年もよろしく。目標は年２山です。

三　橋　去年は月に２回は登った。どこの山でもよい、若い人も誘い合わせて来てほしい。

辻　　仕事の都合で、なかなか例会に参加できない。去年は１山である。今年は頑張って１山でも多く登りたい。

河　村　バッヂ部員になってしまった。今年もぼつぼつといきたい。

中　村　山岳部では古株だが、宴会部員になってしまった。山は好きだが、ヒザの調子が悪く、なかなか行けない。

若　山　私も宴会要員である。去年は千日参りで、愛宕山に登ったのみである。最近はもっぱらテレビ登山している。できるだけ例会に参加したい。

岡　田　例会参加は年に１度でなく、月に１度でお願いしたい。この中で、最年長の近藤氏は８２才、若い人との差は６０才以上ある。このような山岳会は他にはない。すべての年代の年に楽しめる山行計画を立てていきたい。

去年の新年会はマイペースでいきたいという人が多かったが、今年はいないのは結構なことだと思う。ペーパー会員の方が多いが、しきいより高いところは山しかない。三浦本部長にもぜひ来てもらいたい。

４０周年記念出版は是非実現したい。例会にも組み込んでいきます。原稿執筆のため山をよく見ていきたい。

この場に来られている人のうち、ＯＢが３分の１である。若い者が少ないのは残念である。

▲▲他山岳会の会報（受贈分）

12月分　北山、青嶺、愛宕ニュース

１月分　北山（会報400号記念号）、京都山岳、比良山岳、近畿山行、趣味の登山、木雞、山友、青嶺、跋渉譜、一等三角点、烏帽子（137号、138号）

SINCE 1980

THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西　島　輝　雄

左・川端丸太町下る下堤町８８
TEL（075）771－3442

帆　布・濾　布
テ ン ト・シ ー ト
雨　合　羽

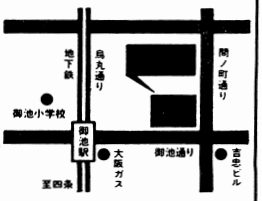
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321－0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグ ホリイケ

営業時間 AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US放出品
ボーイスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0546
●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

●技術とサービスの創る！印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
TEL(075)791-6125(代)
FAX(075)791-7290

小林地図専門店

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区不明門(あけず)通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成3年2月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部